

今回の研究授業の成果として以下の点が挙げられる。

主体的に対話しながら学習する児童が増えた点だ。自分の考えを持ち寄り、友達のと比較しながら話することができるようになってきている。考えに違いが出れば、どちらの考えが正しいのか追加実験を行い検証し、どちらの考えが妥当であるのか考えることができた。また、考えに至った理由を説明しようとする際には、根拠をもつことの必要性を感じることができた。「だって、ここがつながっていないと電気が流れないから・・・」、「プラスチックは電気を通さないから・・・」など、自分の考えを分かってもらうために、根拠を示した説明を行うことができるようになってきている。自分たちで課題を見つけ、それらを解決していく活動の中で対話が主体的に生まれた。

課題としては以下の点が挙げられる。

根拠を持った説明ができるようになってきた児童がでてきた一方で、自分の考えを上手く表現できない児童がいる点だ。自分の考えを持つことができるように、まずは理科用語を理解させ、定着させることが必要だと感じた。さらに理科だけに関わらず、自分の考えを話す、書く活動を取り入れることで、表現することへの抵抗感を薄めることが大切であると考えた。また、表現を受け取る側の成長も重要だと考える。拙い説明であっても要点をつかんで聞くことができれば、対話が広がっていく。表現する側と表現される側が共に成長することが必要だと感じた。